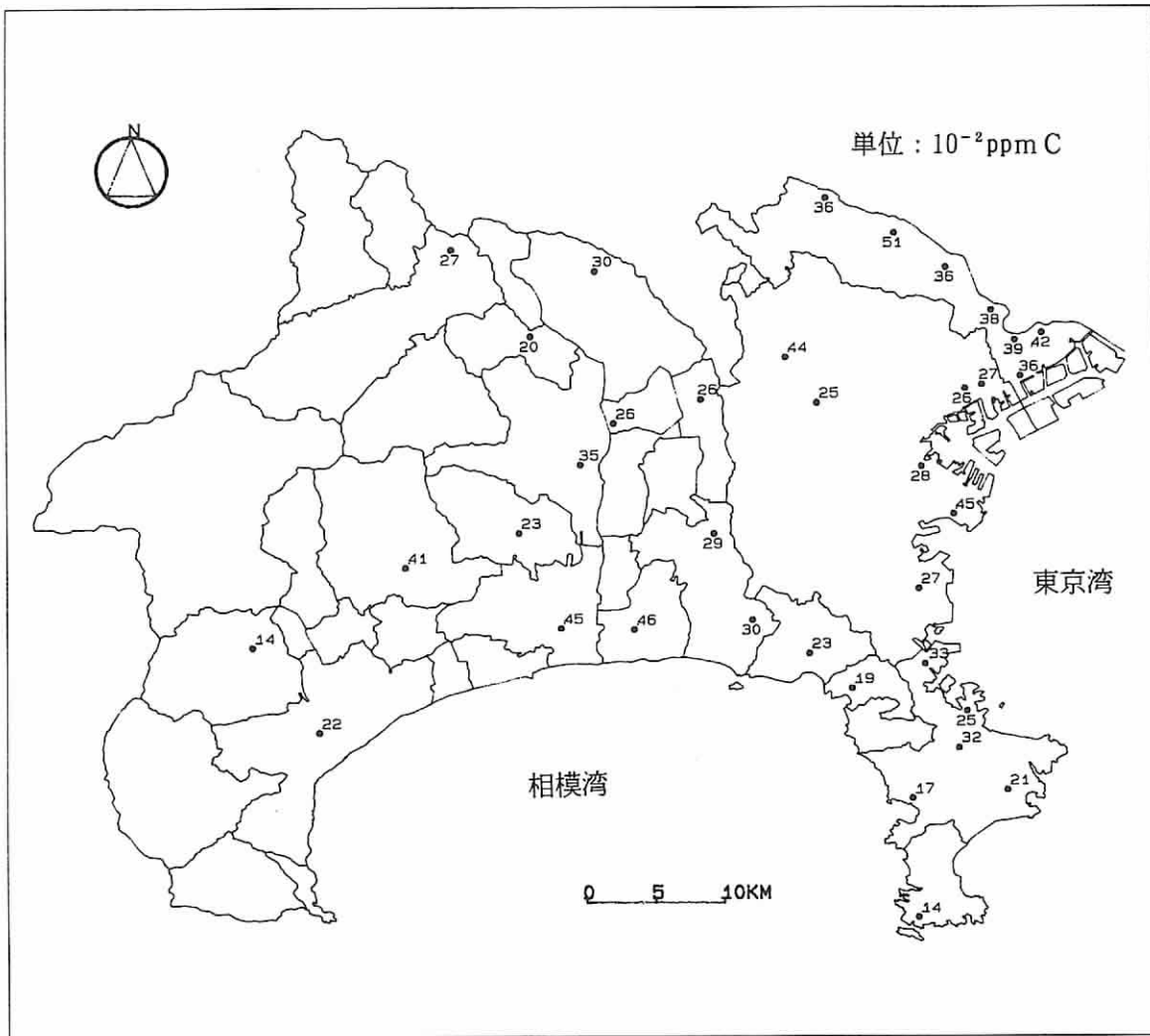


第6節 炭化水素（HC）

- 炭化水素** 炭化水素は、炭素（C）と水素（H）からなる多種類の揮発性ガスの総称であり、その主なものはエチレン、プロピレン、トルエン等である。
なお、HCから光化学反応速度の遅いメタン（ CH_4 ）を除いたものを非メタン炭化水素（NMHC）という。
- 発生源** 大気中のNMHCは、主として塗装、印刷等の作業工程と石油精製、石油化学等の製造、貯蔵及び出荷工程等から排出される。
また、自動車排出ガスの中にも含まれている。
- 環境濃度** 県内のNMHC濃度は、年平均値の一般環境大気測定局の平均値で見ると、平成7年度は過去10年間で最も低かったが、指針値の範囲（6時から9時の3時間平均値が0.20～0.31ppm）を下回ったのは4局のみであった。
- 測定方法** 直接法ガスクロマトグラフ法による。
炭化水素分子が水素炎中の燃焼によりイオン化し、イオン化電流を生じることを利用して、カラムで分離した CH_4 及びNMHC濃度を測定する。

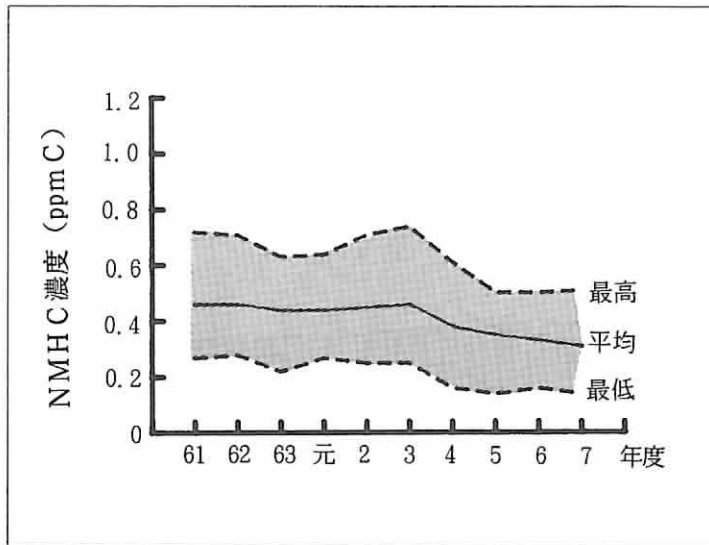
6. 1 NMHC濃度の地域分布 (年平均値)



数値は、一般環境大気測定局におけるNMHCの測定時間数が年間6,000時間以上ある測定局(有効測定局)の年平均値を示す。

NMHCの年平均値は、横浜市北部、川崎市及び平塚市、茅ヶ崎市で比較的高くなっており、西湘地域及び県北地域で低くなっている。

6. 2 NMHC濃度の推移（年平均値）

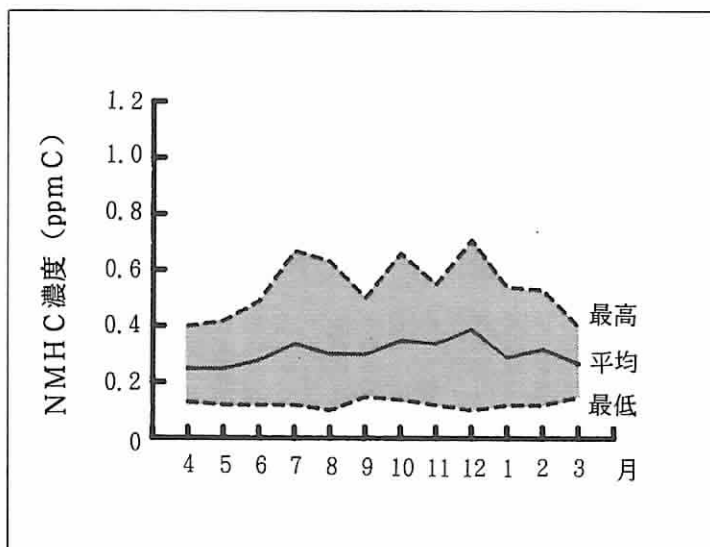


NMHCの年平均値は、一般環境大気測定局の平均値でみると、昭和60年度以降ほぼ横ばいで推移してきたが、平成4年度から4年連続で減少しており、今年度は過去最低であった。

図は、各測定局におけるNMHCの年平均値から求めた一般環境大気測定局の平均値、最高値、最低値を示す。

年度	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7
最高値(ppmC)	0.72	0.71	0.63	0.64	0.71	0.74	0.61	0.50	0.50	0.51
最低値(ppmC)	0.27	0.28	0.22	0.27	0.25	0.25	0.16	0.14	0.16	0.14
平均値(ppmC)	0.46	0.46	0.44	0.44	0.45	0.46	0.38	0.35	0.33	0.31
測定局数	33	35	34	35	37	37	37	37	37	36

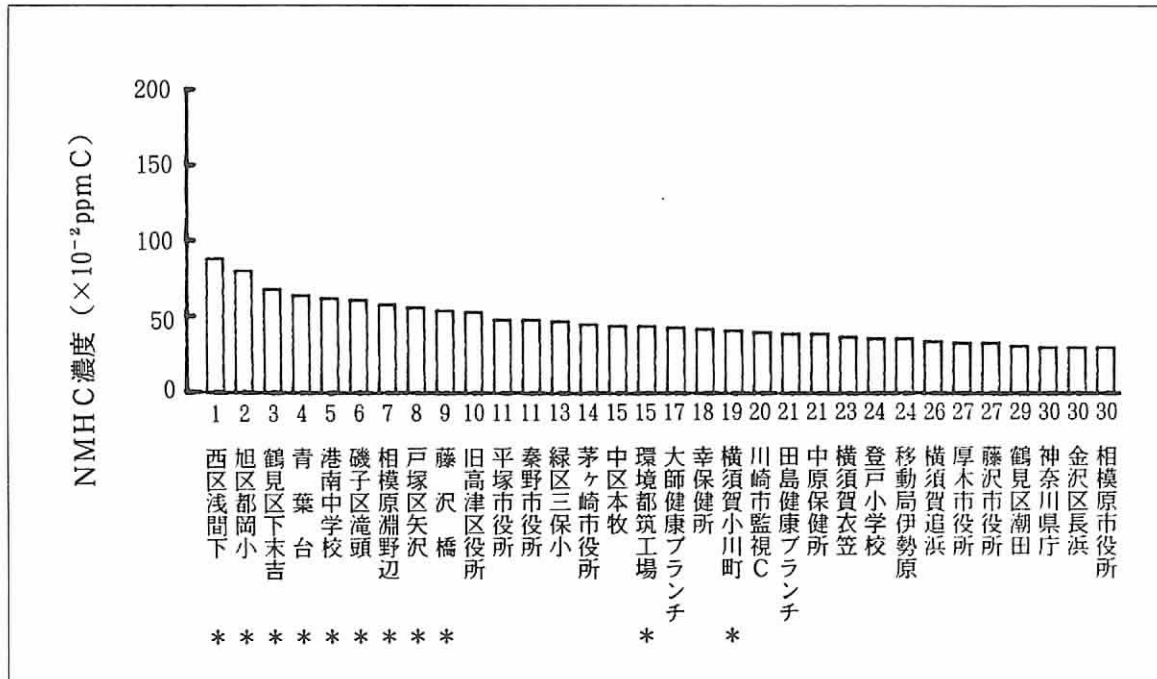
6. 3 NMHCの月別濃度（月平均値）



NMHCの月平均値の一般環境大気測定局の平均値は、大気の状態が安定する日が多い冬季に高くなっており、平成7年度は12月が最も高かった。

図は、NMHC濃度の局別月平均値から月ごとに求めた一般環境大気測定局の平均値、最高値、最低値を示す。

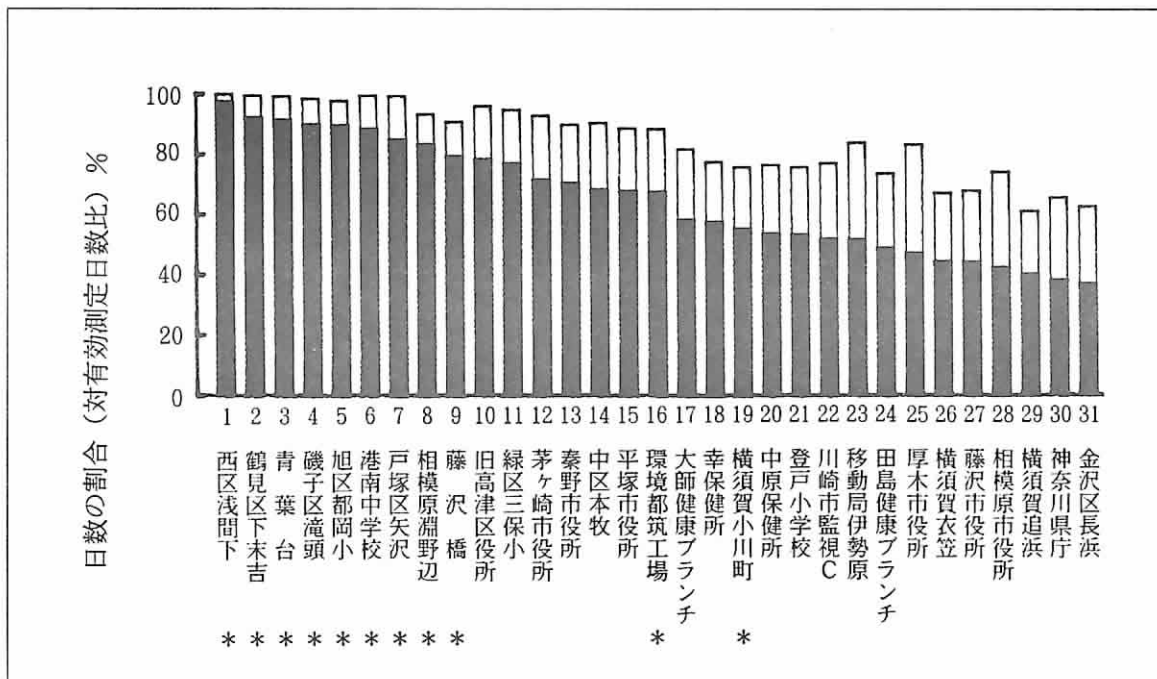
6. 4 NMHC濃度の測定局順位 (6~9時の年平均値)



測定局の順位は、6~9時の年平均値による。

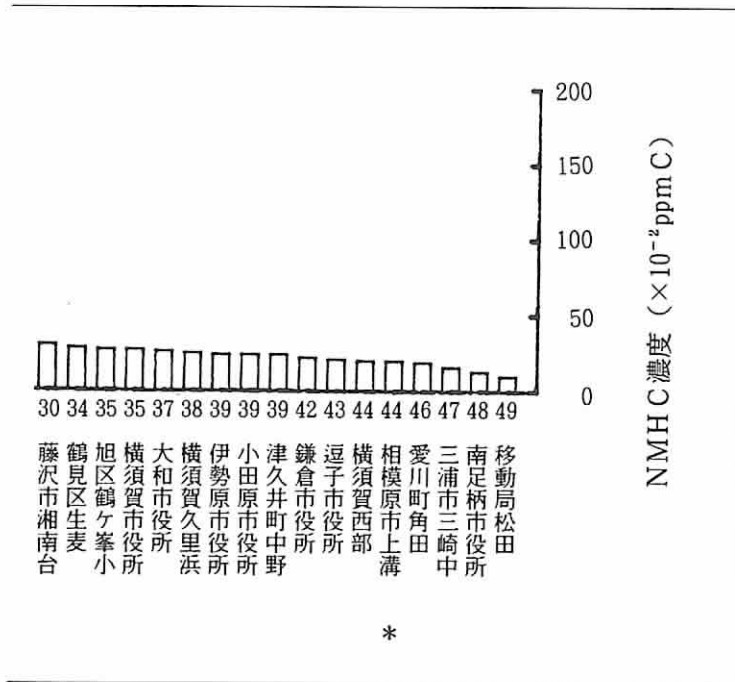
測定局名の*印は、自動車排出ガス測定局を示す。

6. 5 NMHC濃度が指針値0.20~0.31ppm Cを超えた日数の割合の測定局順位 (6~9時の3時間平均値)

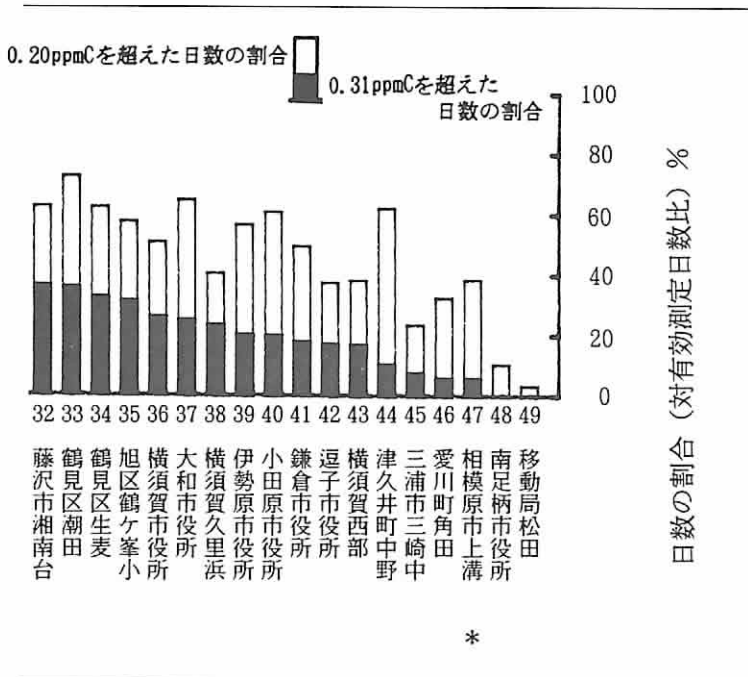


測定局の順位は、0.31ppmCを超えた日数の割合による。

測定局名の*印は、自動車排出ガス測定局を示す。



NMHCの6～9時の年平均値が高いのは自動車排出ガス測定局及び交通量の多い地域の一般環境大気測定局となっている。



NMHC濃度が指針値を超えた日数の割合が大きいのは、やはり自動車排出ガス測定局に多くなっている。

6. 6 NMHC高濃度測定局の推移（年平均値）

一般環境大気測定局

年 度	1 位		2 位		3 位	
		ppmC		ppmC		ppmC
7	旧高津区役所	0.51	茅ヶ崎市役所	0.46	中区本牧	0.45
6	旧高津区役所	0.50	茅ヶ崎市役所	0.49	平塚市役所	
5	旧高津区役所	0.50	茅ヶ崎市役所	0.49	中区本牧	0.46
4	茅ヶ崎市役所	0.61	鶴見区下野谷	0.53	平塚市役所	0.46
3	鶴見区生麦小	0.74			旧高津区役所	0.50
	茅ヶ崎市役所				平塚市役所	0.64

一般環境大気測定局におけるNMHCの年平均値が高いのは、川崎市高津区内、茅ヶ崎市内、横浜市内、平塚市内の局が上位に位置している。